

広島大学文学研究科附属 内海文化研究施設

第37回 季例会・公開講演会

平清盛の「平家納経」寄進とその後の展開
—経巻の見返絵と願文の関わりを中心に—



日時： 12月 5日 月 13:30～15:30

無料

場所： 文学研究科（文学部） 講師：県立広島大学名誉教授
1階 B104講義室 松井輝昭氏

【概要】

厳島神社蔵の「平家納経」は絢爛たる装飾経であり、平清盛ら一族家人32人が極楽往生を願って奉納したものという。しかし、「平家納経」の見返絵と平清盛筆とされる願文のあいだには、容易に解消できない大きな食い違いが見られる。そのためか、平清盛がいつ何を契機としてこの経巻を同神社に寄進したのか、平盛国ら3名の家人がなぜ経巻の奥書に名前を書き入れることができたのかなど、幾つもの未解決の疑問がいまなお残されている。

本講演では、「平家納経」を櫛筆文書・経巻の見返絵・経箱・願文と個別に検討し、この装飾経がどのようにして現在のような形になり、また理解されるようになったのか、その成り立ちについて明らかにしたい。